再発見・牛久第二話

牛久市文化財保護審議委員
栗原（くりはら） 功（いさお）

伊奈家ゆかりの町村名と伊奈神社・薬師如来堂

関東郡代・伊奈忠治によって今日の「牛久沼」が造られた

安土桃山時代から江戸時代初期（徳川第3代将軍家光治政下の寛永7年（1630年）にかけて）、初代の代官頭（のちの関東郡代）伊奈忠次、同2代忠政、同3代忠治ら総指揮の下で日本の治水史上においても歴史的な大普請で、利根・小貝両川の流路が変更された。

利根・小貝両川の流路変更で、牛久沼と小貝川がひと続きになると、豪雨ともなれば牛久沼の水が氾濫し、小貝川の水が牛久沼内に逆流することもあった。そのため、忠治が、牛久沼内にかこいの2000間堤（土手）を築いて、概（おおむ）ね今日の牛久沼を造った。

伊奈家にちなんだ村名「伊奈村」成立―茨城・埼玉両県下に―

昭和28年（1953年）8月、町村合併促進法が公布され、これ以降全国的に町村の合併が進められる中で、同29年7月に茨城県筑波郡最南端の豊・谷井田・三島・小張・久賀（一部）・板橋六カ村の合併によって「伊奈村」が成立した。村名伊奈の由来は、概ね2点あった。伊奈忠治が寛永2年（1625年）に小張村に出先の拠点「陣屋（関東郡代職の屋敷は江戸馬喰町（ばくろう）にあり、ここは出張陣屋（でばり）であった）」を置いていたことと、西南部に位置している水田が、忠治が開発した谷和原3万石の一部であったことからだった。伊奈村は昭和60年4月1日をもって町制を施行し、平成18年3月27日に谷和原村との合併により「つくばみらい市」になった。

もう一方、埼玉県北足立郡下に「伊奈町」がある。この伊奈町の由来も、伊奈忠次が天正18年（1590年）8月に代官頭に就任して間もなく陣屋を設置していることにちなんでいるが、ここの場合は昭和18年（1943年）7月に伊奈村として発足している。

伊奈忠治の眼病治癒祈願―32カ村村民が薬師如来堂建立―

忠治は寛永7年に相馬2万石の新田32カ村余（旧藤代町の大部分と旧取手市の一部外）を造成している。同新田造成中、忠治が目をわずらい苦労していたので、同32カ村の村人がその回復を祈って、毛有村（旧藤代町・現取手市）に薬師如来像（5寸5分の金無垢（きんむく）の立派な）を本尊とする薬師如来堂を建立している。この堂は33年に1度の祭礼の際、厨子（ずし）のとびらを開いて薬師如来像を開帳するしきたりがある。

伊奈神社（谷原3万石開発の祖 伊奈家を祭神として建立）

小貝川に設けられている福岡堰（せき）（現つくばみらい市福岡）は、桜の名所として有名である。その福岡堰を見下ろす高台にひっそりと建つ伊奈神社がある。伊奈神社は「伊奈家」を祭神として昭和16年（1941年）に福岡堰普通水利組合（福岡堰土地改良区の前身）によって建立された。伊奈家が神として人々に拝み奉られているのは、伊奈家が当地谷和原3万石の水田の開祖であり、開発された村々（現在のつくばみらい市外）の子孫が繁栄し、また同地が伊奈家が設置した福岡堰より取水していて、水田がその恩恵に浴していることなどがあげられる。

※再発見・牛久第一話の中に「常陸国猿島郡」とあるのを「下総国猿島郡」に訂正します。

伊奈神社（所在地・つくばみらい市福岡）
写真提供：つくばみらい市